

風土記の丘の花だより¹⁹²

今、そしてこれから見られる植物(2023年7月1日)

沖縄・奄美地方はすでに梅雨が明けたそうです。こちらはあと一雨、ふた雨あるのでしょうか。オカトラノオもアジサイも少しずつ色あせてきて、真夏がそこまで来ている気配がします。



谷村家住宅の南の斜面、右端のあたりでシャシャンボの白い花が咲いています。これはツツジ科の木で、花は釣り鐘状で、ドウダンツツジやネジキに似ていて小さめです。シャシャンボとは面白い名前ですが、主に暖かい地方の海岸沿いに多く生える木で、このあたりでは普通に見られます。秋に小さな実が黒く色づき、食べられますがかなり酸っぱいです。実や花がなくても、葉の裏の真ん中のすじ(主脈といいます)を指でなぞると、所々に小さな突起があるので、手触りだけでシャシャンボと分かります。



シラハギが万葉植物園で咲き始めました。このハギはシロバナハギとも呼ばれ、ミヤギノハギの一品種といわれています。(諸説あるようですが・・・)ミヤギノハギは夏の初めから咲き始め、別名を「ナツハギ」といわれるように、このシラハギも他のハギより早く咲き始めます。今よく咲いている、中央の階段を上りきったところにあるハギはミヤギノハギのようです。といっても、公園などでよく見かけるミヤギノハギとは花の様子がちょっと違うようです。ハギもいろいろな品種があって、難しいです。



万葉植物園の入り口あたりに綿くずのようなものが落ちていたので見上げてみると、ネムノキの花が咲いていました。大池の畔では少し前から咲いていましたが、下ばかり眺めながら歩いているので、万葉植物園でも花が咲いていることに気づきませんでした。ネムノキは夏を代表する花です。万葉歌碑に「昼は咲き、夜は恋ひぬる ねぶの花・・・」と書かれているように、夜になると葉を閉じて眠ったように見えることから「ねむの木」です。それに「合歓木」という漢字を充てています。



トウカンゾウ、ユウスゲに続いて同じ仲間(ワスレグサ属)のヤブカンゾウが咲き始めました。色はトウカンゾウに似ていますが、それより少し赤みがかっています。そして何より八重咲きであることがこの花の特徴です。これは万葉植物園で撮影しましたが、トイレ下のアジサイの植え込みなどで、まもなく咲き始めるでしょう。夏が終わる頃、この仲間では一番遅くノカンゾウが咲きます。さて、いよいよ7月です。一年の折り返しです。 松下